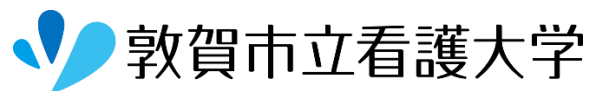


敦賀市立看護大学

地域・在宅ケア研究センター活動報告

令和3年度

地域・在宅ケア研究センター



## はじめに

地域・在宅ケア研究センターは、地域の人々の健康を守り、安心して暮らせることを目指した教育・研究活動を通して地域貢献の拠点として活動しています。地域に根差して現場に学び、地域に開かれた教育・研究活動を開始して、今年度で8年目を迎えました。その取り組みの幾つかを例に挙げさせていただきます。一つ目に、地域住民の方々の健康づくり等の支援を目的に「看護大学健康講座」や「出張講演」を開催しました。看護大学健康講座では、「地域でいきいきと輝くために、身近なところから始める健康づくり」をテーマに、講演や健康チェック・健康相談を行いました。教職員と共に学生も参加して住民の方々とふれあい、多くのことを学ばせていただく機会となりました。また、教育活動として、「出張講演」では教員の専門性を活かし、住民の方が希望された「手洗いの講習会」や「新型コロナウイルス感染症予防」、「体操による筋力向上」などに対応させていただきました。そして、嶺南地域の看護職の方々から多くの申し込みをいただき、研究支援を行いました。これらの継続的な取り組みを通して住民の方々の健康づくりへの貢献に努めました。

今後も地域・在宅ケア研究センターは、地域の健康課題について教育・研究・地域貢献を有機的につなぎながら活動していきたいと思えます。そのために本学教職員の専門性を最大限に発揮できるように、学生が地域の人々の関心を寄せ、主体的に健康課題の解決に取り組む姿勢を育む機会を提供できるように努めたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、次年度に延期した事業もありましたが、感染症対策を講じながら活動した1年間を報告書にまとめました。その内容について、皆さまのご意見やご助言をいただき、今後活かしていきたいと思えます。

令和4年3月

地域・在宅ケア研究センター長  
家根 明子

# 目 次

はじめに

I. 地域・在宅ケア研究センターの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1. 研究センター設置の目的
2. 研究センターの事業
3. 組織構成

II. 教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1. 看護研究方法論講座
  - 1) 令和3年度看護研究方法論講座《入門講座》
  - 2) 令和3年度看護研究方法論講座《研究サポート事業》
2. 看護大学健康講座
  - 1) 令和3年度看護大学健康講座事業
  - 2) 看護大学健康講座まとめ
3. 出張講演

III. 研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. 研究報告会
2. 敦賀市民の健康に関する情報収集

IV. 地域活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

1. 敦賀市への事業協力
2. ボランティア等への参加
3. 地域行事等への参加

添付資料

- 資料1 看護方法研究論講座 実施要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 資料2 敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項・・・・・・・・・・・・ 20



# I. 地域・在宅ケア研究センターの概要

## 1. 研究センター設置の目的

地域・在宅ケア研究センター（以下「研究センター」という。）は、公立大学法人敦賀市立看護大学の使命の一つとして、地域の人々の健康を守り安心して暮らせることを目指した活動の拠点として設立されました。

地域に根差し、現場に学び、地域に開かれた教育研究をすすめるという看護学の特色の具体化に向けて、地域における看護職や医療保健福祉機関等との交流・連携を深めます。

また、地域における看護課題とその解決方法を探求し、大学における学術研究を一層充実させると共に、看護職の資質の向上に寄与します。

## 2. 研究センターの事業

研究センターの事業は地域住民の健康づくり、在宅支援などによる地域貢献、学生の学習活動と地域との連携や看護職の看護実践能力・研究能力支援のための教育、地域の健康評価における健康ニーズ調査などの研究を行います。教育、研究、地域貢献の事業内容は図1に示しました。

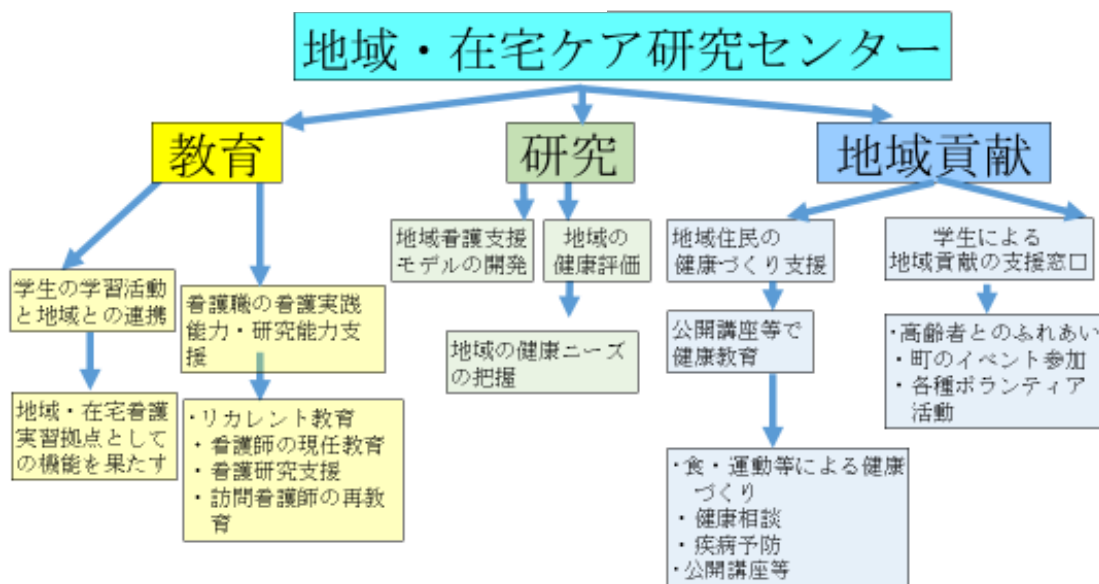


図1 地域・在宅ケア研究センターの事業内容

### 3. 組織構成

地域・在宅ケア研究センターの位置付けを図2に示しました。大学に直接附属する機関であり、メンバーは教職員全員です。

公立大学法人敦賀市立看護大学組織図(2021.4.1)

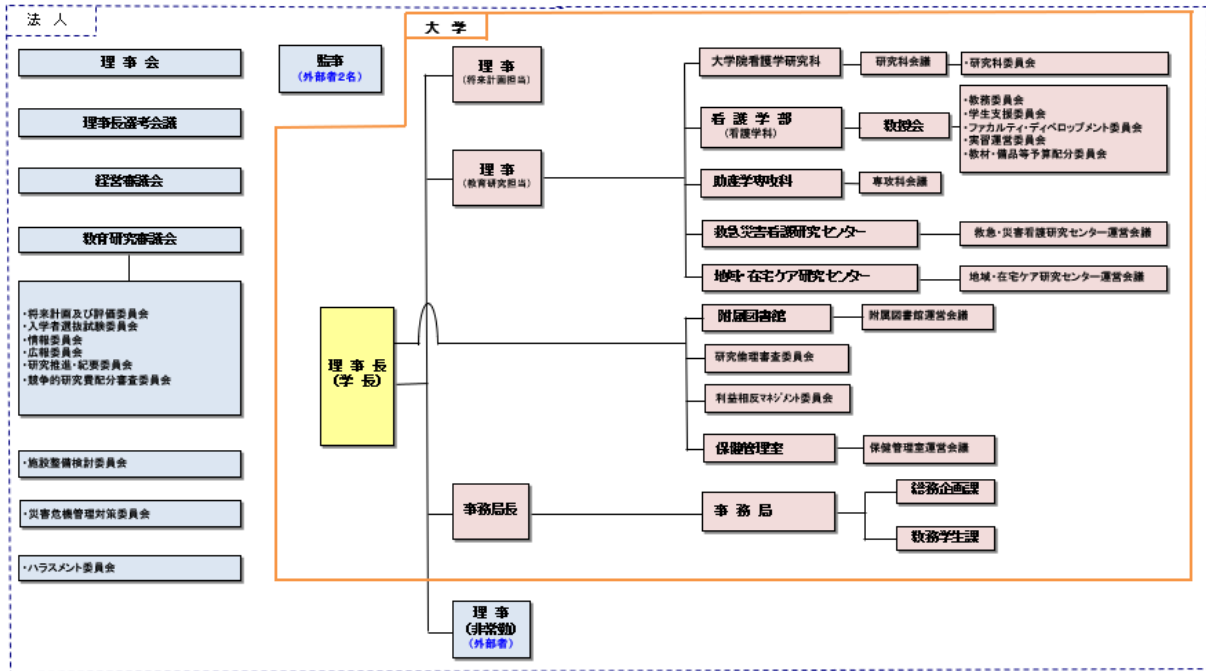


図2 地域・在宅ケア研究センターの組織構成

## II. 教育

### 1. 看護研究方法論講座

看護研究方法論講座は、下記の要領に基づいて入門講座と研究サポートを行っています。

#### 看護研究方法論講座 実施要領

##### 1. 目的

- 1)臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを目指す。
- 2)看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより看護を探究する姿勢を高めることを目指す。
- 3)研究発表を通して、それぞれの施設の研究課題や看護活動を相互に理解することを目指す。
- 4)大学と当該施設の良い関係を構築し、当該施設における医療・看護が円滑に行えることを目指す。

##### 2. 対象者

敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者とする。受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で20件程度とする。

##### 3. 研究の進め方

- 1)大学において看護研究方法の講義・演習を行う。
- 2)本学教員による研究の個人又はグループで指導を希望する者は、研究テーマを決定し、4月末までに研究指導申込書を用いて本学に提出する。研究テーマ決定にあたっては相談に応じる。
- 3)研究テーマに合わせて担当教員を決定する。
- 4)担当教員決定後は、原則として共同研究者（本学の倫理審査を受ける権利の保証）として研究を進める。
- 5)研究発表会や学会、論文等で発表することを目指す。

#### 1) 看護研究方法論入門講座

令和3年度の看護研究方法論講座《入門講座》を表Ⅱ-1の通り企画して関係機関に周知しましたが、新型コロナウイルス感染症等の関係から延期しました(チラシは7・8頁)。受講申込者28名(医療機関22名、健康福祉センター3名、訪問看護ステーション3名)には、次年度の講座を周知し、受講勧奨を行いました。なお、これまでの受講者数は表Ⅱ-2に示す通りです。

表Ⅱ-1 令和3年度看護研究方法論講座《入門講座》概要

日時		内容	担当
第1日目 (2月5日)	13:00～13:10(10分)	1. オリエンテーション① 本講座のねらい、目標について	家根明子
	13:10～14:00(50分)	2. 看護研究の概要と研究課題について	交野好子
	14:10～15:10(60分)	3. 文献検索の方法	池原弘展
	15:20～16:20(60分)	4. 文献のクリティーク	池原弘展
第2日目 (2月12日)	13:00～14:20(80分)	1. 研究の種類：量的研究	喜多義邦
	14:30～15:50(80分)	2. 研究の種類：質的研究	前川直美
	15:50～16:20(30分)	3. オリエンテーション② 研究計画書作成に向けて	家根明子
第3日目 (3月5日)	13:00～14:00(60分)	1. 研究の倫理と倫理審査	北村隆子
	14:00～14:10(10分)	2. 今後の進め方について	運営委員 (家根明子、前川直美、 鈴木隆史、中堀伸枝、 高城絵美)、他
	14:20～(120分程度)	3. 研究計画書の作成に向けて (グループワーク・個別相談)	

表Ⅱ-2 看護研究方法論講座《入門講座》受講者数の推移

開催年度	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	備考
講座開催 日数	3日	3日	3日	3日	3日	2日	3日	3日	新型コロナウイルス感染症等にて R1年度は1日中止、R2年 度は全て中止、R3年度は次 年度に延期した
延受講者数 (R2・3は申込者数)	138	56	56	40	79	28	5	28	

## 2) 看護研究サポート

これまでの看護研究方法論講座《入門講座》受講者から表Ⅱ-3の通り研究指導の申込があり研究サポートを行いました。これまでの研究サポート実績は表Ⅱ-4に示す通りです。



表Ⅱ-3 令和3年度看護研究方法論講座《研究サポート》の実績

No.	テーマ※	施設名	担当教員
1	勉強会前後のスキン-ケア予防に関する看護師の行動変化	国立病院機構敦賀医療センター 【2階病棟】	家根明子
2	化学療法に対する当病棟での意識調査	国立病院機構敦賀医療センター 【3階病棟】	横山浩誉
3	洗顔方法を検討し皮膚のただれや皮脂汚れの減少を検証	国立病院機構敦賀医療センター 【ひまわり病棟1】	伊部亜希
4	自走できない重症心身障害児への離床ケアの実態調査	国立病院機構敦賀医療センター 【ひまわり病棟2】	池原弘展
5	重症心身障害児の体重変化の実態調査	国立病院機構敦賀医療センター 【ひまわり病棟3】	河合正成
6	整形外科手術における他職種合同術前シミュレーションの効果	国立病院機構敦賀医療センター 【手術室】	山崎加代子
7	高齢者のスキンケア～入浴後に保湿剤を使用して得られる保湿効果の検証	レイクヒルズ美方病院	前川直美

※申込時テーマ

表Ⅱ-4 看護研究方法論講座《研究サポート》実績の推移

開催年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
件数		8件	9件	10件	8件	6件	1件	7件

### 3) 看護研究方法論まとめ

看護研究入門講座は次年度に延期となりましたが、昨年度と同様に対象を嶺南地域まで拡大するとともに、周知時期を早めて受講者数の増加を図りました。この結果、新型コロナウイルス感染症の影響下にも関わらず、入門講座および研究サポート申込者は、昨年より増加する結果となりました。センターのこれまでの教育活動や研究サポート支援などの取り組みも背景にあると考えられます。今後は、広報や受講方法の工夫などにより看護研究の一層の推進を図ります。



## 令和三年度 研究を行い看護ケアを開発してみませんか！ 看護研究方法論講座 入門講座

国民のニーズの多様化や医療等を取り巻く環境の変化、地域包括ケアシステム推進の観点から看護職者の役割は増大しています。

このため、看護の充実と発展のために看護ケアの開発や効果の検証、看護業務の改善につながる研究が必要です。

看護研究方法論講座は、敦賀市立看護大学が嶺南地域の看護職者の方の研究を推進・支援することを目的に開催しています。この講座は「入門講座」と「研究指導」の二本立てになっており、下記の入門講座を受講された方が研究を実施される場合は、ご希望により研究指導を行っております。

入門講座終了後の流れは、裏面をご確認ください。

※受講対象者は、嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者の方です  
(これ以外の方はお問い合わせください)

### ◆看護研究入門講座の目的

1. 科学的思考を基に、臨床現場で看護研究ができる基礎的知識を身に付けることができる。
2. 研究計画書を作成することができる。

### ◆入門講座申込方法

ご所属の施設を通してお申し込みください。※1日単位の受講も可

### ◆入門講座スケジュール

※受講料・指導料は無料 会場は、敦賀市立看護大学(敦賀市木崎78-2-1)

問い合わせ先  
敦賀市立看護大学  
地域・在宅ケア研究センター  
事務局  
電話 0770-20-5540  
FAX 0770-20-5548

		内容
第1日目 令和4年 2月5日(土)	13:00-13:10(10分)	1.オリエンテーション① 本講座のねらい、目標
	13:10-14:00(50分)	2.看護研究の概要と研究課題について
	14:10-15:10(60分)	3.文献検索の方法
	15:20-16:20(60分)	4.文献のクリティーク
第2日目 令和4年 2月12日(土)	13:00-14:20(80分)	1.研究の種類:量的研究
	14:30-15:50(80分)	2.研究の種類:質的研究
	15:50-16:20(30分)	3.オリエンテーション② 研究計画書の作成に向けて
第3日目 令和4年 3月5日(土)	13:00-14:00(60分)	1.研究の倫理と倫理審査
	14:00-14:10(10分)	2.今後の進め方について
	14:20-(120分程度)	3.研究計画書の作成に向けて (グループワーク・個別相談)



研究を行い看護ケアを開発してみませんか！

# 敦賀市立看護大学 看護研究方法論講座 全体概要

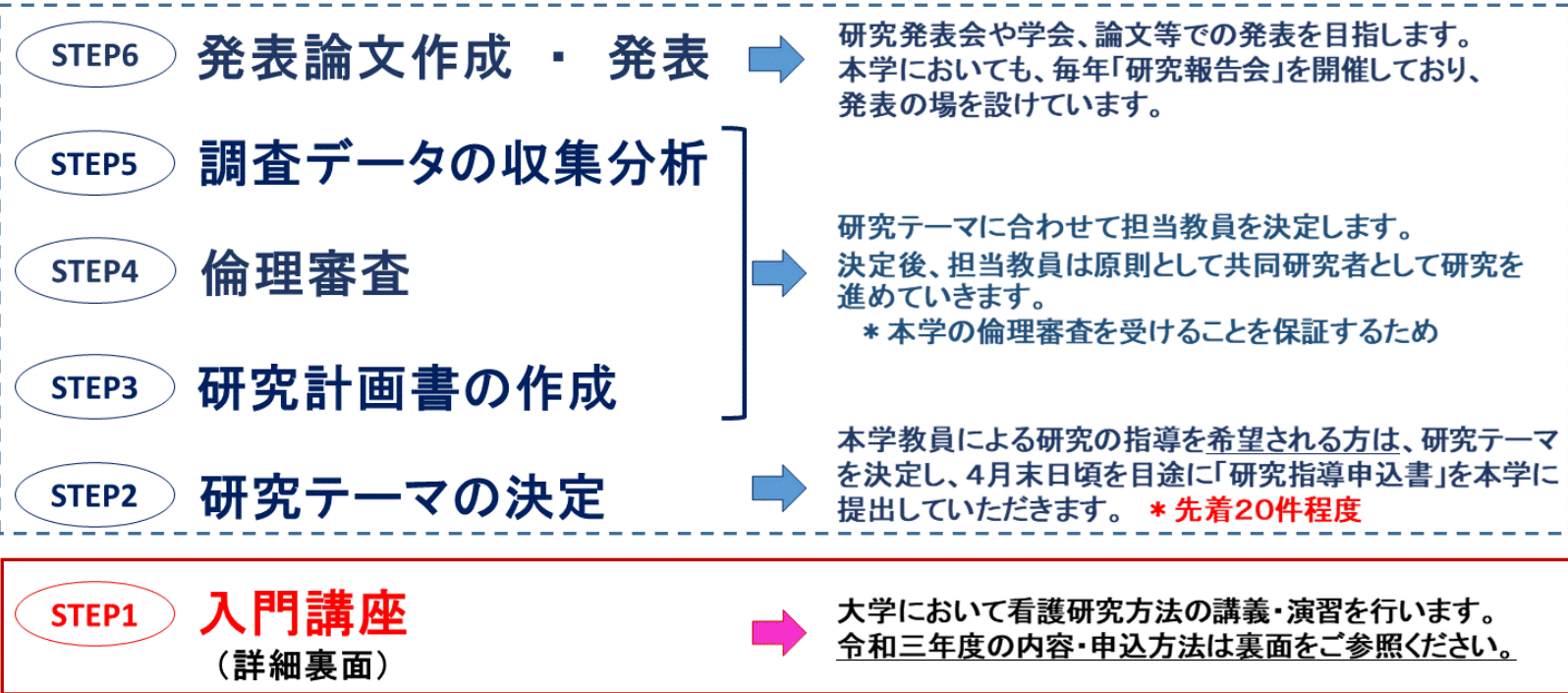
※受講対象者：敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者の方です  
(これ以外の方はお問い合わせください。)

本学では、看護の充実と発展に寄与するため、嶺南地域の看護職者の方の研究を推進・支援することを目的に「看護研究方法論講座」を開催しています。  
ご希望により研究指導(STEP2以降)も行っています。

8

研究の流れ

ステップ2以降は、希望者のみ対象



受講料・指導料：無料 会場は、講座・研究指導共に敦賀市立看護大学

問い合わせ先：敦賀市立看護大学地域・在宅ケア研究センター事務局 電話0770-20-5540

## 2. 看護大学健康講座

### 看護大学健康講座事業の概要

地域住民の健康づくりを支援するとともに、地域に開かれた大学として住民が気軽に集い、交流する場を提供することを目的に、平成27年度3月から「看護大学喫茶」を開始してきました。平成30年度からは、講演をメインにした内容として、名称を「看護大学健康講座」として実施しています。内容は、教員の専門性を活かした講演、住民が自身の健康状態を知り、継続的に健康づくりに取り組める契機となるような健康チェック(体力測定)・健康相談です。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行下であっても、身近なところで取り組める健康づくりが実践できるように「地域でいきいきと輝くために、身近なところから始める健康づくり」をテーマに、企画しました。

### 1) 看護大学健康講座の開催計画と実施

令和3年度は、4回の講座を計画しましたが、10月(第3回)を除き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止しました。概要は表Ⅱ-5に示すとおりです。

表Ⅱ-5 令和3年度看護大学健康講座の概要

日時	場所	内容	従事者	参加者	備考
第1回 (中止)	本学	①講演 「知って得する熱中症の危険と予防」 山崎加代子 教授 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため中止		
第2回 (中止)	本学	①講演 「高齢者のこころの健康づくり～スト レスをためない暮らし方をしよう～」 石橋佐枝子 講師 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため中止		
第3回 10/30 (土) 10:00- 12:00	本学	①講演 「心肺蘇生法の体験」 河合正成 准教授 災害・救急分野専攻学生 ②健康チェック ③健康相談	17名 ・教職員8名 ・学生9名	14名	
第4回 (中止)	本学	①講演 「花粉症と免疫について」 徳永日呂伸 教授 ②健康チェック(体力測定) ③健康相談	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため中止		

## 2) 看護大学健康講座まとめ

表Ⅱ-6 のとおり、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の関係で 1 回も開催できませんでしたが、本年度は看護大学健康講座を 1 回開催することができました。

次年度は、今年度と同程度の開催を検討していますが、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、開催場所を地域住民に近い場での開催の検討を行います。加えて、学生が学びの場としてこの講座を活用できるよう検討を重ねていきます。

表Ⅱ-6 看護大学健康講座（看護大学喫茶）参加者数の推移

年度	2015** (H27)	2016** (H28)	2017** (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
回数・参加者数							
開催回数	2	3	4	3	3	0	1
参加者数	79	133	177	76	168	0	14

\*2017 年度までは「看護大学喫茶」として開催

### 講演：心肺蘇生法の体験



### 健康チェックコーナー



### 3. 出張講演

出張講演として、住民の皆さまや専門職の方を対象とした教養講座と健康講座を開設しています。教員のそれぞれの知識と知恵を活かした講演テーマのパンフレットを作成し、その中から聞いてみたいと思う内容があれば、クラブ、サークル、会社等のグループ単位で申し込んでいただき、日時、場所等を調整したうえで実施しています。令和3年度出張講演実施状況を表Ⅱ-7に、出張講演参加状況の推移を表Ⅱ-8に示しました。

表Ⅱ-7 令和3年度出張講演実施状況

No.	実施日	対象団体	講演テーマ	講師	実施場所	受講人数
1	4月23日	敦賀市消費者連絡協議会	“いきいき100歳体操” で筋力アップ	横山浩誉 講師	敦賀市立図書館	中止
2	7月7日	東浦老人クラブ協議会	新型コロナウイルス感染 予防について	徳永日呂伸 教授	東浦公民館	35
3	10月24日	郷市区自主防災会	災害時の対応 避難所での 感染予防「防災とコロナ感 染症対策について」	池原弘展 准教授	郷市区児童館	47
4	11月19日	敦賀市消費者生活 センター	“いきいき100歳体操” で筋力アップ	横山浩誉 講師	敦賀市立図書館	20
5	1月30日	美浜町役場健康福祉課	手指衛生に関する健康講座	池原弘展 准教授	美浜町竹波原子 力防災センター	中止

表Ⅱ-8 出張講演実施状況の推移

回数・参加者数	年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
		(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)
開催回数			17	13	6	8	8	8	3
参加者数			739	593	316	291	293	191	102

新型コロナウイルス感染予防について



災害時の対応 避難所での感染予防  
「防災とコロナ感染症対策について」



### Ⅲ. 研究

#### 1. 研究報告会

看護や地域医療保健福祉の質の向上を目指すことを目的として、平成 29 年度より年 1 回、研究報告会を開催しています。大学教員の研究成果や地域の看護職の実践活動の報告が行われます。

##### 1) 研究報告会の実施

令和 3 年 9 月 30 日（木）14：00～16：00、第 4 回敦賀市立看護大学研究報告会を開催しました。感染対策を行い、2 会場に分散して同時配信の形式で実施しました。表Ⅲ-1 の通り、計 8 題の演題申し込みがあり（学外 3 題、学内 5 題）、研究成果や実践報告の口頭発表が 2 部構成で行われました。参加者は 115 名（一般 6 名、学部生・大学院生 76 名、教職員 33 名）でした。

表Ⅲ-1 第 4 回敦賀市立看護大学研究報告会プログラム

	第 1 部 座長 池原弘展（敦賀市立看護大学）		
14：05－14：45	全世代に広げよう健康寿命延伸プロジェクト	辻 洋子 奈良英子 山本道子	敦賀市食生活改善推進員連絡協議会
	全人的苦痛緩和に向けて	名子友紀	(医) 指定訪問看護ステーション めいほう
	療養者・家族の思い、願いを大切に する 退院支援～末期がん療養者の退院から 振り返る～	山路香織	
14：45－15：00	休憩		
	第 2 部 座長 山崎加代子（敦賀市立看護大学）		
15：00－15：50	敦賀市と看護大学生が創造する 災害から要配慮者の命を守る健康づくり と防災対策プロジェクト報告	三田村禎士 本江咲彩	敦賀市立看護大学 4 年生
	A 市出身者と転入者別に見た成人の 生活習慣と健康意識の実態（第 2 報）	野沢和也	敦賀市立看護大学
	「食べさせる」ことで患者の 「食べる」の意味が変化した一事例	池原弘展	
	児童養護施設の看護師が捉える 感染症対策の現状	後藤千佐子	
	コロナウイルス不安尺度(CAS)と COVID-19 強迫観念尺度 (OCS) 日本語版の信頼性と妥当性研究	石橋佐枝子	

## 2) 研究報告会の評価

参加学生のアンケート結果は、以下の通りです。また、これまでの演題数・参加者数は表Ⅲ-2に示す通りです。

(回収数 45 回収率 59.2%)

1. 学年	人数	割合
1年生	2	4.4
2年生	3	6.7
3年生	7	15.6
4年生	33	73.3
大学院生	0	0.0

2. 卒業研究・看護研究に向けて参考になりましたか？	人数	割合	4年生	3年生	2年生	1年生
大変参考になった	9	20.0	8	0	0	1
参考になった	34	75.6	24	6	3	1
あまり参考にならなかった	1	2.2	0	1	0	0
参考にならなかった	1	2.2	1	0	0	0

※参考になった理由

<4年生>

- ・発表のイメージがよりしっかりした。研究の展開を改めて考える機会となった。
- ・発表の仕方によってわかりやすさが違うと学んだ。
- ・実習などの経験を踏まえて聞くことができた。
- ・自分の卒業研究のテーマと類似したテーマがあって参考になった。

<3年生>

- ・研究発表というものがどのようなものか知ることができた。
- ・研究のまとめ方などの指標になった

<2年生>

- ・自分の卒論に書きたい内容を想像することができた。
- ・解決策を考える上で意見を出し合うことがよりよいものになるということが参考になった。

<1年生>

- ・自分が何に興味を持っているのか、何をもっと調べたいと思うのか知るきっかけになった。
- ・質疑応答を聞いて、深く理解する為の視点が勉強になった。

3. 興味深い内容はありましたか？	人数	割合	4年生	3年生	2年生	1年生
かなりあった	9	20.0	7	0	1	1
まああった	31	68.9	22	6	2	1
あまりなかった	5	11.1	4	1	0	0
なかった	0	0.0	0	0	0	0

※興味深かった内容

<4年生>

- ・訪問看護の現場で実際に働いておられる看護師の方々の発表
- ・全人的苦痛緩和に向けて  
(全人的苦痛については、講義や実習で学んでいたが、改めて勉強になったため)
- ・療養者・家族の思い、願いを大切にする退院支援(終末期看護について考えさせられたため)
- ・「食べさせる」ことで患者の「食べる」の意味が変化した一事例
- ・児童養護施設の看護師が捉える感染症対策の現状
- ・コロナウイルス不安尺度(CAS)と COVID-19 強迫観念尺度(OCS)の日本語版の信頼性と妥当性研究

<3年生>

- ・患者の「食べる」の意味が変化した一事例から、口から食べることの大切さを学んだ。
- ・普段、授業を受けている先生方はどのようなことを研究されているのか興味があった。

<2年生>

- ・全体的苦痛の話にとっても興味が沸いた。



- ・食事についての内容。病院と在宅では看護師であっても考え方や視点がそれぞれ異なるため、患者のことを考えた看護を行うには、どのようにしていくとよいか考えるきっかけになった。

<1年生>

- ・全人的苦痛緩和や療養者・家族の思い、願いを大切にす退院支援というテーマが特に興味深かった。対象の見えない痛みを理解する難しさがある中で、その人から発せられたことばをその人の人生や価値観と結びつけながら理解するという方法が私にとっては新たな発見だった。今後も他者の痛みを理解し、寄り添うためには何が必要なのかを実習の経験や勉強をしながら考えて深めていきたい。また、対象の望みを引き出し、他の職員や機関と共有し連携する大切さも学んだ。

4. 報告された内容は理解できましたか？	人数	割合	4年生	3年生	2年生	1年生
理解できた	10	22.2	9	0	1	0
まあ理解できた	34	75.6	23	7	2	2
あまり理解できなかった	0	0.0	0	0	0	0
難解だった	1	2.2	1	0	0	0

5. 次回以降も参加したいですか？	人数	割合	4年生	3年生	2年生	1年生
参加したい	6	13.3	3	0	2	1
まあ参加したい	25	55.6	17	6	1	1
あまり参加したくない	9	20.0	9	0	0	0
参加したくない	4	8.9	4	0	0	0
(回答なし)	1	2.2	0	1	0	0

#### 6. 感想（自由記載）

<4年生>

- ・難しい内容もあった。

<1年生>

- ・看護研究に対して曖昧なイメージを持っていたけれど、今回の研究発表会を通してイメージを掴めた。病院だけでなく、地域や災害の場から看護の視点を取り入れている研究もあり、自分の考えていたより幅広い研究だと感じた。今後もあるなら積極的に参加して自分の視野を広げ、考えを深めていきたい。

表Ⅲ-2 敦賀市立看護大学研究報告会 演題数・参加者数の推移

年度	2017*	2018*	2019**	2020	2021*
演題数・参加者数	(H29)	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)
演題数	13	9	16	(中止)	8
参加者数	48	47	56		115

\*参加者数に報告者以外の教職員は含まれず

### 3) 研究報告会まとめ

今回の報告会に参加した学生の意見から、学生の研究への関心が高める教育的な機会ともなっていることが伺えました。一方で、参加頂いた住民の方からは「事前に演題が分かるとよい」、感染対策のため2会場に分散して同時配信で行ったことにより、「聞こえにくい時があった」等のご意見を頂きました。今年度の反省を踏まえ、次年度は、プログラムを事前に大学ホームページ等でお知らせできるよう、またどの会場にも報告者の音声や映像が上手く届くよう改善に努めていきたいと考えます。今後も看護や保健医療福祉からの多様な実践報告を募り、研究報告者、参加者双方の理解と交流が深まり、地域での研究活動がより推進されることを目指していきます。

会場の様子：大教室



会場の様子：教室C



発表の様子



## 2. 敦賀市民の健康に関する情報収集

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、令和元年度、地域・在宅ケア研究センター事業として敦賀市民に実施した調査結果を基に、今年度はさらに情報収集を行う予定でした。しかし、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の関係で事業の一部が中止となりました。開催された事業でのアンケート調査では、参加者が現在抱えている健康上の課題を収集することに努めました。

令和元年度の敦賀市との意見交換では、敦賀市が抱えている課題として以下の3点が挙げられました。

- ① 健康に関する知識の普及、啓発（例：イキイキ健活プラス1）に取り組んでいるが、継続的な住民の主体的な実践に繋がりにくい。
- ② 健康無関心層に関心を持ってもらうための工夫が必要
- ③ 健康づくりを地域で担うリーダーの養成が必要

敦賀市の健康課題を把握することを目的に、今後も継続して情報の集積に努め、分析を深めることで、敦賀市の健康課題を明らかにしていきたいと考えています。それらをもとに、敦賀市と協働しながら、敦賀市に合った健康づくりの方法を、学生の柔軟な発想も取り入れながら、センターの事業に反映していきたいと考えています。

## IV. 地域活動

### 1. 敦賀市への事業協力

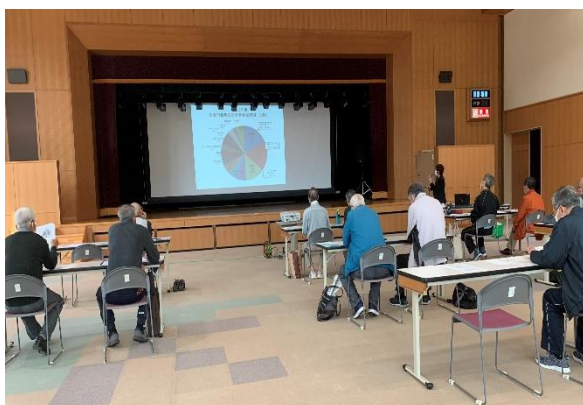
敦賀市では、平成28年度から介護予防事業として「男のための元気づくり道場」（全5回）、「女性のための元気づくりスクール」（全5回）が実施されています。  
令和3年度は、それらのうち各1回（計2回）の講義依頼に協力しました。  
内容は以下の通りです。

#### 1) 「男のための元気づくり道場」

- (1)実施日 令和3年10月26日（火）
- (2)テーマ 「生活習慣病を予防しよう。介護予防って何？」
- (3)講師 北村 隆子 教授
- (4)参加者 12名
- (5)参加者の感想
  - ・体重や血圧を毎日測るようになった。
  - ・自分自身の体調を気にするようになった。
  - ・運動すると体調が良くなることを実感できた。

#### 2) 「女性のための元気づくりスクール」

- (1)実施日 令和4年1月6日（木）
- (2)テーマ 「介護予防の知識とロコモティブシンドローム・フレイル予防」について
- (3)講師 鈴木 隆史 講師
- (4)参加者 33名
- (5)参加者の感想
  - ・看護大学講師の講義で現実が分かり納得できた。
  - ・常に体を動かすよう心がけるようになった。
  - ・今まで以上に自分の体力維持や運動について関心を強くもった。



写真（左）男のための元気づくり道場の講義風景

（右）女性のための元気づくりスクールの講義風景

受講者相互の間隔を開ける等、感染防止対策をとりながら講義を実施しました。

（写真は敦賀市長寿健康課より提供いただきました）

## 2. ボランティア等への参加

ボランティア等への参加状況及び年次推移を表Ⅳ-1、表Ⅳ-2 に示しました。

表Ⅳ-1 令和3年度ボランティア等参加実績

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6月20日	「福井ユナイテッドFC」公式戦試合運営	福井ユナイテッド株式会社	敦賀市総合運動公園	入場者誘導（検温等）、チケットもぎり	学生3名
2	7月11日	みんなの居場所「withふくい」	みんなの居場所「withふくい」	宇波西神社	「あそびばー」で子どもたちと遊び、見守る	学生4名
3	9月15日	交通安全見守り活動 大学生ボランティア	敦賀警察署	松原小学校 付近	松原小学校付近での交通安全の見守り活動	学生6名
4	11月26日	人権学生ボランティア	福井地方法務局	角鹿中学校	人権啓発活動（車椅子バスケットボール体験）	学生1名

表Ⅳ-2 ボランティア等への参加状況の年次推移

	2014(H26)		2015(H27)		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)		2020(R2)		2021(R3)	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	4	39	10	77	9	40	10	59	8	163	7	66	2	5	4	14
教職員	2	7	2	13	3	7	1	7	1	6	1	0	0	0	0	0

### 交通安全ボランティア

市内企業様より見守り活動グッズの贈呈



松原小学校付近での登校見守り活動



### 3. 敦賀市各種委員会等への参加

敦賀市の各種委員会への参加状況及び年次推移を表IV-3、表IV-4に示しました。

表IV-3 敦賀市の各種委員会等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	6月25日	多世代型ウェルネス広場整備事業プロポーザル審査委員会	敦賀市都市政策課	敦賀市役所	企画提案についてプレゼンテーションとヒアリングを通して審査	学生1名
2	8月～R4.1月	敦賀市成人式企画運営委員会	敦賀市生涯学習課	敦賀市役所プラザ萬象	第73回敦賀市成人式開催の企画運営	学生4名
3	12月4日	敦賀ネットモールにおける学生モニター	敦賀市ふるさと創生課	市内商業施設	市内商業施設の情報発信	学生3名

表IV-4 敦賀市の各種委員会等への参加状況の年次推移

	2014(H26)		2015(H27)		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)		2020(R2)		2021(R3)	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	2	7	4	10	4	10	1	5	0	0	0	0	2	5	3	8

### 4. 地域行事等への参加状況

地域行事等への参加状況及び年次推移を表IV-5、表IV-6に示しました。

表IV-5 地域行事等への参加状況

No.	実施日	イベント名	依頼者	場所	内容	参加人数
1	8月21日	昭和町出前夏祭り	昭和町	昭和町1・2丁目	出前夏祭りの運営	学生11名 教職員1名

表IV-6 地域行事等への参加状況の年次推移

	2014(H26)		2015(H27)		2016(H28)		2017(H29)		2018(H30)		2019(R1)		2020(R2)		2021(R3)	
	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数
学生	2	7	5	61	9	61	7	144	4	21	4	21	4	21	1	11
教職員	2	5	3	10	7	10	4	5	2	3	2	3	2	3	1	1

## 資料 1

### 看護研究方法論講座 実施要領

敦賀市立看護大学 地域・在宅ケア研究センター

#### 1. 目的

- 1) 臨床現場における看護研究の推進をはかり、科学的思考の基で看護ケアが創造できる能力を身に付けることを目指します。
- 2) 看護研究の成果を当該施設内外で発表することにより、看護を探究する姿勢を高めることを目指します。
- 3) 研究発表を通して、それぞれの施設の研究課題や看護活動を相互に理解することを目指します。
- 4) 大学と当該施設の良好な関係を構築し、当該施設における医療・看護が円滑に行えることを目指します。

#### 2. 対象者

対象者は、敦賀市、美浜町及び嶺南地域の医療・看護・保健・介護関係施設に勤務する看護職者とします。

受け入れ可能な研究指導件数は、個人・グループ等で 20 件程度とします。

#### 3. 研究の進め方

- 1) 大学において看護研究方法の講義・演習を行います。  
日時・内容の詳細は別途定めます。
- 2) 本学教員による研究の個人又はグループで指導を希望する方は、研究テーマを決定し、4 月末日までに研究指導申込書を用いて本学に提出して下さい。なお、研究テーマ決定にあたっては相談にも応じます。
- 3) 研究テーマに合わせて担当教員を決定します。
- 4) 担当教員決定後は、原則として共同研究者（本学の倫理審査を受ける権利の保証）として研究をすすめていただきます。
- 5) 研究発表会や学会、論文等で発表していただけることを期待しています。

平成 30 年 12 月改定

## 資料 2

### 敦賀市立看護大学研究報告会 実施要項

#### 1. 目的

研究成果や実践活動を通して、看護や地域医療保健福祉の質の向上に資することを目的とする。

#### 2. 対象者

- 1) 敦賀市及び美浜町の医療・看護・保健・福祉施設等に勤務する者
- 2) 一般市民など

#### 3. 実施方法

- 1) 演題は医療・看護・保健・福祉等に携わる者から公募する。
- 2) 本学の教員は、原則として過去1年間に発表した研究成果を報告する。
- 3) 研究成果や実践内容を口頭発表する。
- 4) 開催は年1回とし、開催時期は秋季とする。
- 5) 報告会の世話人は大学教員が担当する。



令和3年度地域・在宅ケア研究センター運営会議 構成員

(○センター長、五十音順)

鈴木隆史、高城絵美、中堀伸枝、前川直美、八木祥絵（事務局）、○家根明子

令和3年度 地域・在宅ケア研究センター活動報告書

---

令和4年3月31日発行

編集発行 敦賀市立看護大学

〒914-0814 福井県敦賀市木崎 78-2-1 TEL:0770-20-5500

---

